

境川・猿渡川流域水害対策計画の概要

境川・猿渡川流域は10市2町からなり、流域内人口は約69万人で、台地、丘陵地を中心に市街地が形成されている。

大規模な宅地開発や企業進出により流域の都市化は進んでおり、都市化率は約56%となっている。

都市化の進展が著しい本流域では、河川のみ対策または下水道のみの対策だけでは浸水被害を防止することに限界があることから、平成24年4月1日に特定都市河川等の指定をし、今後、さらに流域での連携を強化し、浸水被害対策を実施していくこととした。

本計画は「特定都市河川浸水被害対策法」に基づき、**河川管理者・下水道管理者及び流域内の地方公共団体が共同で策定する浸水被害防止を図るための計画**である。

流域水害対策計画の考え方

目標

河川管理者、下水道管理者、地方公共団体が連携して、**年超過確率1/10***の規模の降雨が発生した場合において、**床上浸水解消**を目指す。

※年超過確率1/10の規模の降雨
毎年、その規模を超える降雨が発生する確率が1/10、24時間雨量204mm

河川管理者

- 目標となる降雨が発生した場合において、以下の目標を達成する。
 - ・特定都市河川指定区間 ⇒ 洪水を計画高水位内で安全に流下
 - ・その他区間 ⇒ 溢水等による著しい浸水被害の防止

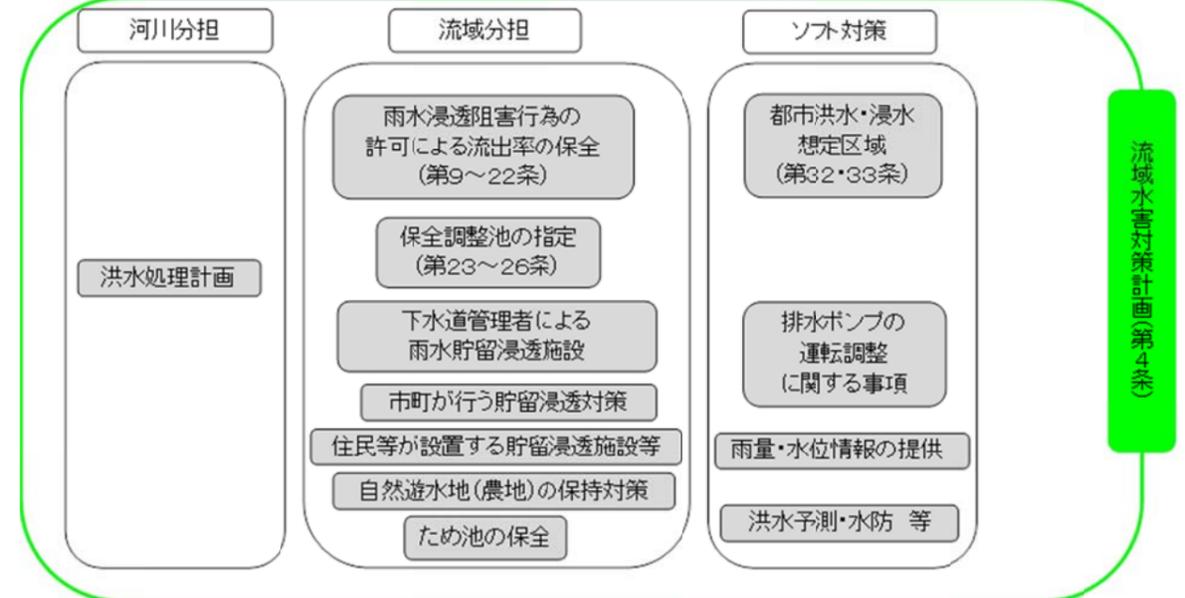
下水道管理者

- 目標となる降雨が発生した場合において、雨水対策施設等の整備により、**被害の発生する浸水を解消する。**

地方公共団体(流域市町)

- 目標となる降雨が発生した場合において、雨水貯留浸透施設等の整備により、**浸水被害の軽減を図る。**

流域水害対策計画の計画事項



流量分担に関する考え方

目標降雨により発生する洪水の流量を下記により分担する。

- ①河道や洪水調節施設での分担
- ②下水道管理者を含む自治体が設置する雨水貯留浸透施設による分担
- ③水田・宅地等における許容湛水による分担
- ④流出率の保全となる雨水貯留浸透施設等による流出抑制効果量



河川名	関係市町	流域面積 (km ²)	幹線延長 (km)	河川数
境川 (逢妻川含む)	名古屋市、刈谷市、豊田市、安城市、東海市、大府市、知立市、豊明市、日進市、みよし市、東郷町、東浦町	221	約25.0	27
逢妻川	刈谷市、豊田市、安城市、知立市、みよし市	87	約10.7	7
猿渡川	刈谷市、豊田市、安城市、知立市	46	約17.5	6
合計	10市2町	266	約42.1	33